

北海道知事 高橋 はるみ 様

北海道環境影響評価審議会

会長 池 田 透



幌延風力発電事業更新計画に係る計画段階環境配慮書について（答申）

平成 3 1 年 1 月 2 1 日付け環境第 1 0 7 1 号で諮問のありましたこのことについて、次のとおり答申します。

### 記

本事業は、宗谷管内幌延町で平成 15 年から運転されている「オトンルイ風力発電所」（最大出力 21,000kW、28 基。以下「既設風力発電所」という。）の更新を行うものであり、約 70ha を事業実施想定区域として最大出力は変更せず、既設風車より大型化した 6～11 基の風車を設置する計画である。

事業実施想定区域は利尻礼文サロベツ国立公園特別地域に囲まれた狭い帯状の地域の一部であり、その東側は、特別地域の中でも特に優れた景観や生態系を維持する目的で指定される特別保護地区に近接しているほか、同区域の周辺にはラムサール条約湿地であるサロベツ原野や重要野鳥生息地（IBA）が存在しているなど、同区域の周囲は自然環境保全上、極めて重要な地域となっている。また、事業実施想定区域及びその周辺はガン類などの渡りの経路となっているほか、同区域の周辺では、オジロワシなど希少猛禽類の繁殖情報がある。さらに、「サロベツ原野の自然景観」や「利尻山を望む景観」などは、利尻礼文サロベツ国立公園における重要な眺望景観となっている。

以上を踏まえ、本事業による環境影響を回避又は十分に低減するため、事業者は次の事項に的確に対応すること。

#### 1 総括的事項

(1) 本配慮書において事業者は、計画段階配慮事項の全般にわたり、重大な環境影響が生じる可能性は小さい又は重大な環境影響を回避・低減できる可能性が高いなどと評価しているが、計画熟度の低い現段階における評価である。このため、今後の対象事業実施区域の設定、事業の規模、風車の配置及び構造・機種種の検討に当たっては、2 の個別の事項の内容を十分に踏まえ、複数の専門家等から助言を得るなどしながら、各環境要素に係る環境影響について適切な方法により調査を行い、科学的知見に基づいて予測及び評価を実施し、その結果を事業計画に反映させること。  
なお、その過程において、重大な環境影響を回避又は十分低減できない場合若しくは回避又は低減できることを裏付ける科学的根拠を示すことができない場合は、事業規模の縮小など事業計画の見直しを行うことにより、確実に環境影響を回避又は低減すること。

(2) 更新事業である本事業による影響の評価に当たっては、単に現況からの変化のみに着眼することなく、これまで既設風力発電所で実施してきた自主的な調査や本事業に係る現地調査等により、既設風力発電所が及ぼしている環境影響の程度を客観的に把握することに努め、それを勘案した上で適切に評価すること。

(3) 事業実施想定区域の周辺では、他事業者が計画している風力発電事業が複数あり、これらの風

力発電事業との累積的影響が生じるおそれがあることから、必要な情報を入手した上で、本事業との累積的影響について適切に調査、予測及び評価を実施すること。

- (4) 本事業において、風車の設置に係る工事に加えて、既設風車の撤去工事が行われることから、工事工程の工夫により工事の集中を避けるなど、工事の実施に伴う環境影響を可能な限り低減すること。
- (5) 今後の手続きに当たっては、住民等への積極的な情報提供や説明などにより、相互理解の促進に努めること。
- (6) 本配慮書については、縦覧期間終了後も事業者のウェブサイトで閲覧が可能な状態となっており、情報公開に関する一定の配慮は認められるものの、今後は印刷可能な状態にすることなども含め、さらなる利便性の向上に努めること。

## 2 個別的事項

### (1) 動物

ア 事業実施想定区域は、鳥類への影響を考慮すべき区域を示した「風力発電立地検討のためのセンシティブティマップ」において注意喚起レベル A3 のメッシュに含まれ、さらにその北部に隣接して注意喚起レベル A1 が位置していることから、特に重点的な調査が必要とされている。また、同区域の周辺はガン類、ハクチョウ類の渡りの経路となっているほか、オジロワシ、チュウヒなどの希少猛禽類の重要な生息地となっている。このため、関係機関や専門家等からの助言を得ながら、鳥類の移動経路、生息状況等に関する詳細な調査を行うこと。その上で、バードストライクや生息環境の変化などの影響について適切な方法により予測及び評価を実施し、その結果を風車の配置検討に反映することなどにより、影響を回避又は十分に低減すること。

イ 既設風力発電所では、これまでオジロワシのバードストライクが2例確認されている。更新計画では既設風力発電所と同様に海岸線に沿って南北に等間隔で風車を配置する複数案が示されていることから、更新後も同様な事故が発生するおそれがある。このため、過去の発生事例についての原因究明に努めるとともに、今後の対象事業実施区域の設定や風車配置の検討に当たっては、その結果も踏まえて影響を回避又は十分に低減すること。

ウ 動物相については、専門家等からの助言を得ながら的確に把握するとともに、重要な動物種について、適切な方法により予測及び評価を実施し、生息地の改変を避けることなどにより、影響を回避又は十分に低減すること。

### (2) 植物及び生態系

ア 植物相については、専門家等からの助言を得ながら的確に把握するとともに、重要な植物種について、適切な方法により予測及び評価を実施し、生育地の改変を避けることなどにより、影響を回避又は十分に低減すること。

イ 生態系については、専門家等からの助言を得ながら、上位性注目種や典型性注目種等について、事業実施想定区域周辺の生態系を特徴づける適切な種を選定した上で調査、予測及び評価を実施し、注目種の好適な生息地又は生育地の改変を避けることなどにより、影響を回避又は十分に低減すること。

### (3) 景観

事業実施想定区域は、サロベツ湿原や利尻山、砂丘林など湖沼、湿原、海岸、山岳景観が一体となって織りなす原生自然的な水平的景観を特徴とする利尻礼文サロベツ国立公園に囲まれており、特に景観上の配慮が求められる。このため、こうした特徴的な景観の価値認識の把握も含め、適切な方法により調査、予測及び評価を実施し、その結果を風車の配置検討に反映することなどにより、影響を回避又は十分に低減すること。